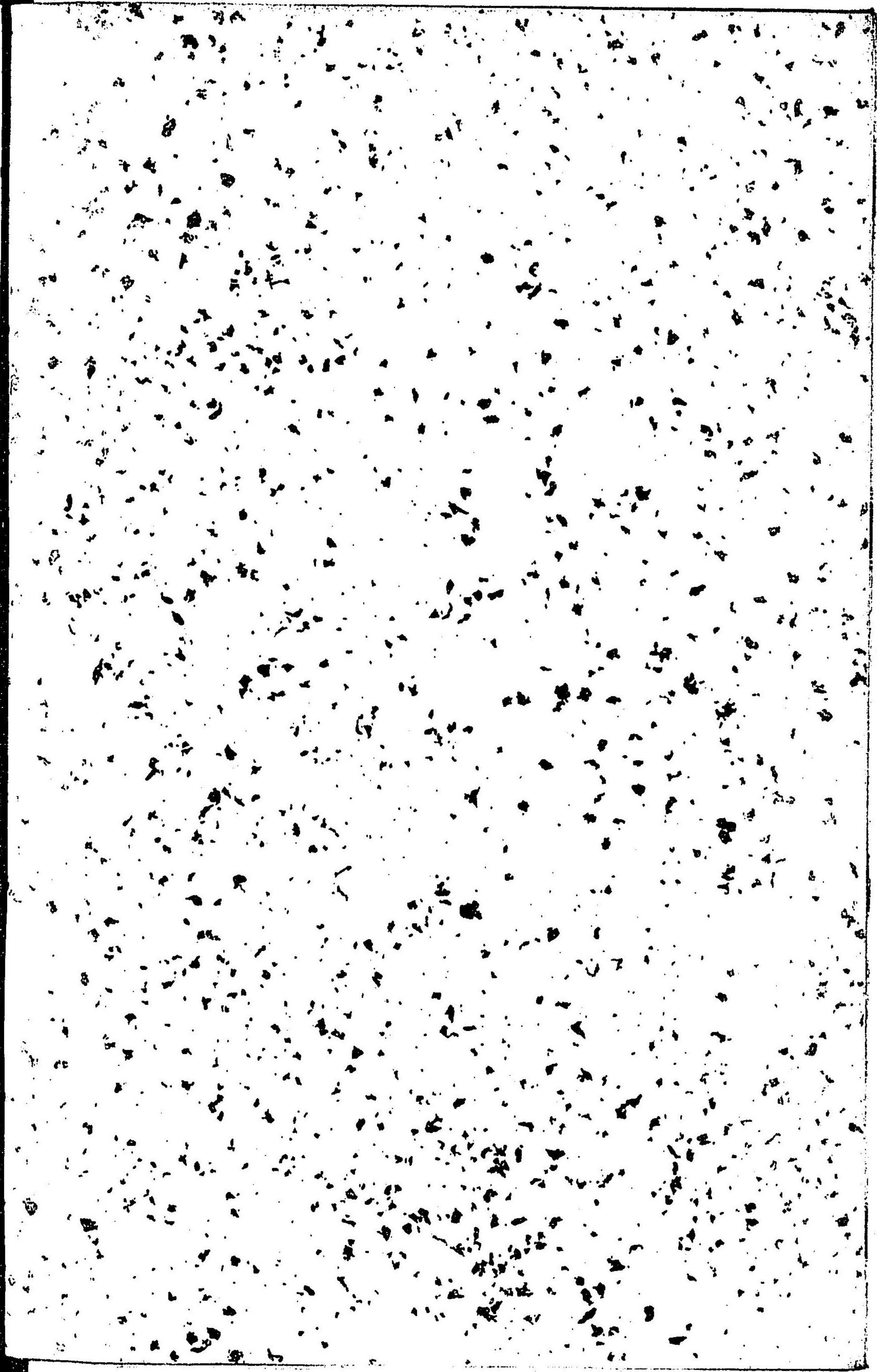
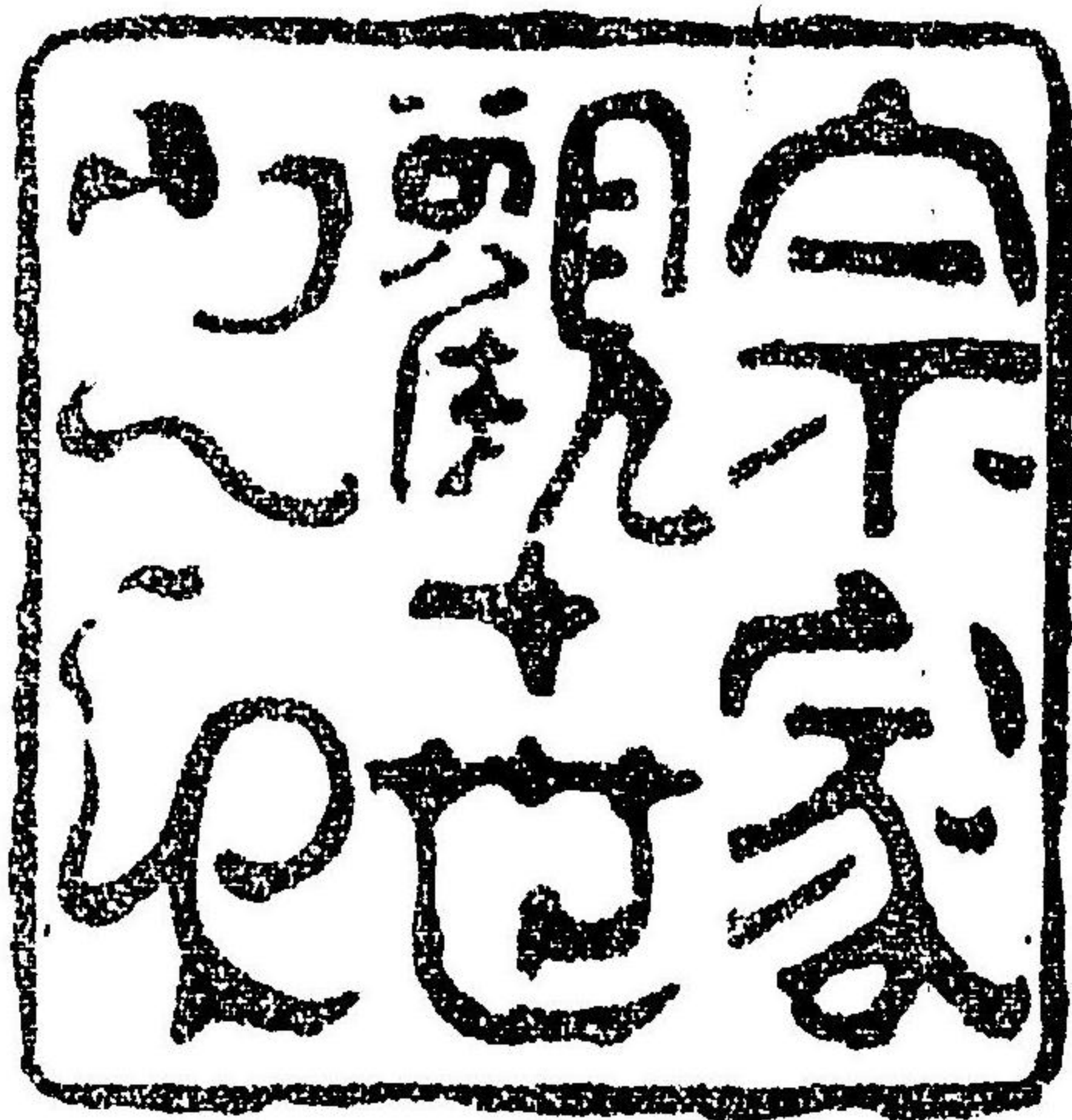
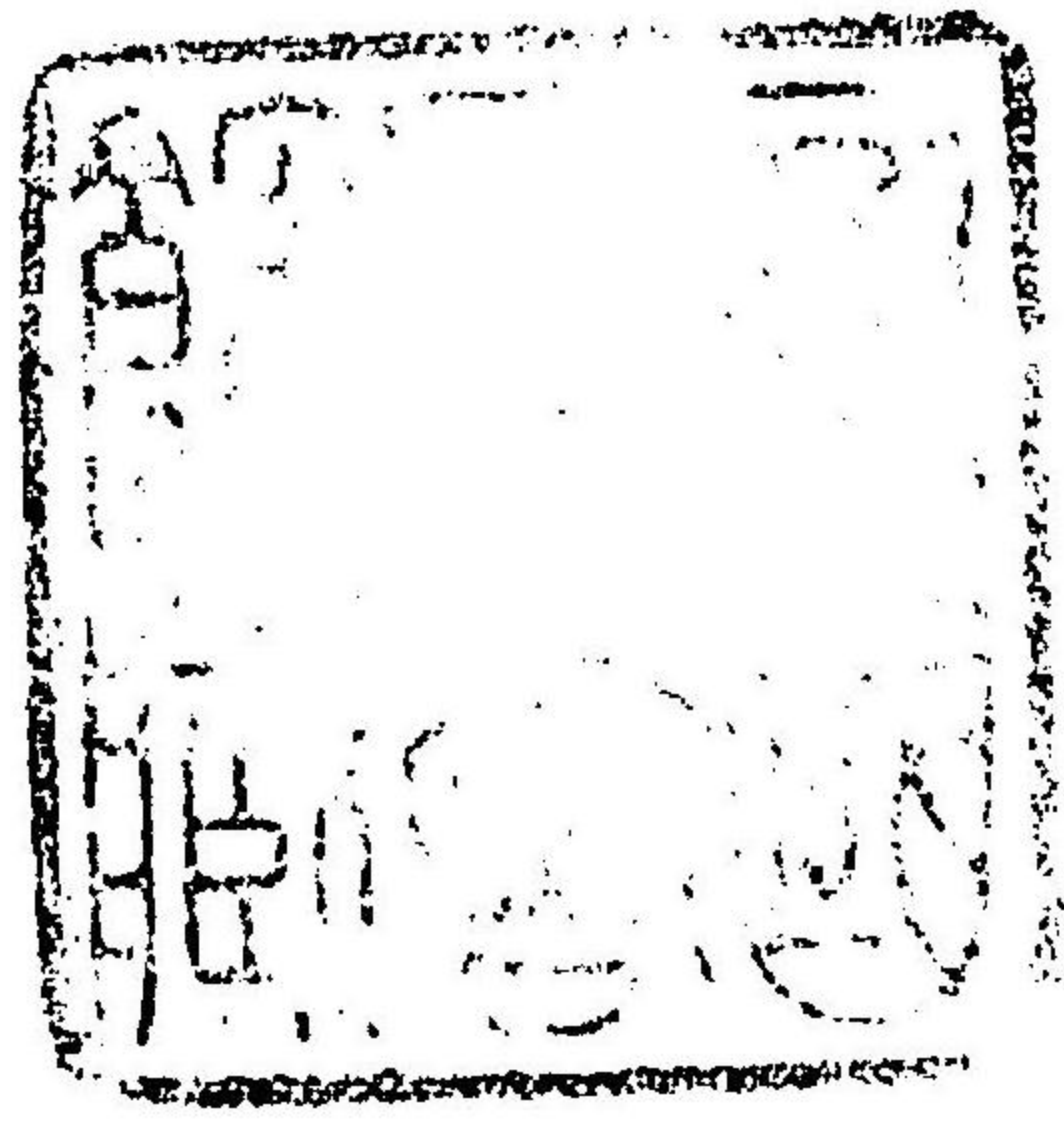


246

35

183

程 彈 東 安 子
丸 地 毛 粉
次



九月 田舎田 野原 田舎 野原

三輪

シテ 女 三輪明子

ワキ 吉宿傳都

二月 田舎田 野原 田舎 野原

安宅

シテ 年 慶

子方 判官義隆
内行山伏
剛 富樫某
能キ 富樫某
能キ 全使者

三月 田舎田 野原 田舎 野原

東北

シテ 女 和泉式部

ワキ 信

八月 田舎田 野原 田舎 野原

蟬丸

シテ 通 髪

ワキ 勅使 丸

九月 切巻

猩々

シテ 程々

ワキ 男

三輪

是の和明三輪は陰に信者なる

玄賓と申す門下は毎も此程

いふもあはれ一人毎日櫛を

うたはせぬる身は今日も

てふあはれあはれなる身は

と名に三輪の女は

三輪

不入スレくたきども出デる月ツキ夜ヤ地チよ
 志シしく掃ハクむ又マタ生ナる鳥トリ聲コエとく
 ありあつて春ハルまは秋アキある山ヤマ谷コ
下河カハ柴シ火ヒあきかおしひらきか
 尋ヒねまきかきくト羅ラとたきまきく
 比ヒ給トくウ秋キも手テ寒サムらうちウく
 行ユクの松マツ月ツキうも時トキ氣キは乃ノ焚ヤクくまク

庭ニハの面オモどい津ツやまらラのらんラン下シ梅ウメ花ハナ
 氷ヒ音ネも昔コトよかきくク因ユある此ココ山ヤマ後ノチ
 うきひウキヒあアゆみユミ入イりリあアらラあア
 事コト乃ノ作サ村ムラをヲおオ書キてテ小コ砂スナのノ御ミ衣ヰ
 をヲ重ヘ給トくク女メのノ子コ夜ヤとトあアらラ
 きキあアらラ名ナ録ロクやヤらラらラ
 淨オシ眼イのノかカんン皆ミ極キョク淨オシをヲあアらラく

あつらふまじり...
あつらふまじり...
あつらふまじり...
あつらふまじり...
あつらふまじり...
あつらふまじり...
あつらふまじり...
あつらふまじり...
あつらふまじり...
あつらふまじり...

あつらふまじり...
あつらふまじり...
あつらふまじり...
あつらふまじり...
あつらふまじり...
あつらふまじり...
あつらふまじり...
あつらふまじり...
あつらふまじり...
あつらふまじり...

輪甲・ウ・ス清スく清スき唐ウ・ク衣スらると思ウひあ
 取スと心スぞいハ早ハ振ハ神ハを殺スのハ方ハ故ハ
ハよハ人のハ徳ハ遇ハまハ逢ハうハ娘ハしハのハみハ也ハ
 あハ昇ハなるハ枝ハれハ木ハ陰ハもハ好ハなるハはハ榮ハ
 乃ハびハのハまハせハ給ハまハうハやハねハあハくハのハ事ハ世ハのハ
 命ハ生ハるハ願ハひハとハあハはハ後ハとハまハ又ハたハれハ
 まハせハとハ命ハ殺ハ淫ハのハ感ハ後ハもハ罪ハのハころハも

をハ徳ハ心ハやハ取ハあハがハ我ハ陰ハとハ人ハまハ
 みハくハよハ一ハ罪ハとハたハまハきハてハひハ給ハ入ハらハやハ
 罪ハ科ハのハ人ハ同ハよハあハるハ具ハのハ妙ハ成ハ神ハ音ハのハ
ハ命ハ生ハるハ海ハ度ハのハ方ハ便ハなるハとハ志ハがハ来ハてハひハのハ
ハ人ハらハもハやハ女ハ女ハをハ三ハ痛ハのハ非ハくハ
 ちハのハ也ハ掛ハ帯ハをハ引ハ入ハてハはハ祝ハあハるハ子ハがハ
 急ハまハあハるハ急ハ所ハ特ハ衣ハ高ハのハうハ入ハ掛ハ

出歌ありたるまゝに記すべし
事や 古神代の昔物語の事代
家生^{シユエシヤタ}の爲^シ海^シ度^タ方便^{ヘンベツ}の事^{コト}わが^{ワガ}あ
もつと世^ヨのためあり 守^ミりも^モ此^{コノ}敷^{シキ}
海^{ウミ}人^{ヒト}も^モま^マの^ノ神^{カミ}か^カま^マの^ノ五^イ濁^{ダク}れ
廣^{ヒロ}ま^マの^ノつ^ツま^マの^ノ心^{ココロ}定^サ東^{トウ}の^ノ大^{ダイ}和^ワ國^{クニ}
年^{トシ}久^クし^シま^マの^ノ婦^{メノ}の^ノ者^{モノ}あり^{アリ}む^ムち^チよ^ヨと^トこ

イラハニシテ
女^メ玉^{タマ}様^{サマ}の^ノら^ラぬ^ヌ色^{イロ}を^ヲた^タの^ノま^マは^ハ子^コ
は^ハま^マの^ノ人^{ヒト}た^タの^ノ共^{トモ}の^ノみ^ミえ^エの^ノ有^ア
よ^ヨの^ノむ^ムつ^ツこ^コは^ハは^ハの^ノむ^ムつ^ツこ^コは^ハの^ノむ^ムつ^ツこ^コ
く^ク年^{ネン}月^{ゲツ}の^ノ書^{シヤク}を^ヲ行^{ユク}と^トり^リぬ
あ^アの^ノあ^アる^ルあ^アら^ラで^デ浦^{ウラ}の^ノ給^{キヨク}を^ヲぬ^ヌき^キと^トぬ
志^シん^ン多^タま^マの^ノあ^アり^リの^ノ同^{ドウ}く^クぬ^ヌと^トり^リ
あ^アの^ノ契^{ケツ}り^リを^ヲむ^ムす^スと^ト有^アる^ル彼^{カノ}人^{ヒト}

三十一
答いよやう神もト安ぬ神一トひトりて
金ト可トもトあトらトしトあトんトどトありト夜トぬト通トふ
まト菜トもトこトよトひトづトりトあトりトとト態トは
語トきトばトさトひトもトあトまトしトあトりトあトいトぬトる
可トもトあトらトしトあトんトどトありト夜トぬト通トふ
膏トよトらトれトいトぢトりトまトくト締トまトひトらトて
まトくトひトくトくトまトくト普ト柳トのト急トあトらトくトあトいトぬトる

三十二
まトくトひトくトくトまトくト普ト柳トのト急トあトらトくトあトいトぬトる
まトくトひトくトくトまトくト普ト柳トのト急トあトらトくトあトいトぬトる
まトくトひトくトくトまトくト普ト柳トのト急トあトらトくトあトいトぬトる
まトくトひトくトくトまトくト普ト柳トのト急トあトらトくトあトいトぬトる
まトくトひトくトくトまトくト普ト柳トのト急トあトらトくトあトいトぬトる
まトくトひトくトくトまトくト普ト柳トのト急トあトらトくトあトいトぬトる
まトくトひトくトくトまトくト普ト柳トのト急トあトらトくトあトいトぬトる
まトくトひトくトくトまトくト普ト柳トのト急トあトらトくトあトいトぬトる
まトくトひトくトくトまトくト普ト柳トのト急トあトらトくトあトいトぬトる
まトくトひトくトくトまトくト普ト柳トのト急トあトらトくトあトいトぬトる

律リツくク一ヒト狩カのノちチりリのノあアらラら
何ナニとト岩イハ倉クラやヤうウのノ際サヘにニ戸ドをヲあアけケ
あアけケのノ有アりリのノ夢ユメのノつツきキはハあアらラるル
やヤらラるルあアらラるルあアらラるルあアらラるル

安宅

早ハヤかカ換カのノ者モノかカ加カ賀カ國クニとトがガ一ヒト行ユク某ナニ
あアらラとト終ハつツまマよヨりリ判ハ官クニ殿ノ十ト二ニ人ニのノ
作ツクらラ山ヤマ岱トとト叫コエくク奥ウチへヘはハ下ゲ向カウのノ由ユ輕カ
朝アサのノ名ナ及ツまマれレ國クニとトよヨ新ニ關カとトあアらラるル
山ヤマ岱トとトあアらラるル擡エラひヒやヤとトあアらラるル

高岡河可也と某密のくは作と
 女申の白もわくや付たもと
 如中誰うある△法前ある△今自も
 山依の法通りあらぶてある中しゆを
 老く△^{上分山伏同}核の衣を藤急の核衣
 へす△^{亮ニト}かきの露を祀神も志保らん
 鴻門たぐ破き都の卯乃核衣日毛

さるぐけ御路のまき思るカ後社さる
 かあま^{ヌト}相は供乃人ごよ伊勢乃
 三島後行乃公島行雲ま尾常陸
 房^{シテ}年慶光^亮達の法と成て
 後ら十二人のいまあらまぬ核は油
 乃ま^{ニト}かき露を祀とけりあて
 いつせ入限もいしあや白雲の御路

妻よしうぐありウかしもて秋を
二月キナラギニのウくヤ寺ハあらむノ十日トのト月
七都シとト出トくヤ見カかハかクもハ海ノも
わラれクぬウくカもシらぬ氣ト逢レ坂トに
山ノかくはシ震ガり妻ぬらぬ付く
浪ノ路ノ遠ク行キ舟ノく海津ノ浦ノは
妻ノきらの東をもちて舟ノ行キ津ノ幕ノ多ク

づクあら地ノ山ノ氣ハは海宮ノ若ク久シま
津ノ垣ノや松の木は山形ノく先又カらこ
たらぬ松山ノ人ノの板り取り行瀬トはつ乃
麻ノ生津や東の三國ノ湊ノありあれ
海ノ浪ノ波ノよきてあひく舟ノをきりまぬ
花ノの葉もはなきりくはなるる
程ノよきの也もはなきりくはなるる

此可^{オシ}湯^{ヤス}休^ユた^タあらうぞと^{シテ}お^オま^マく^クの

判^ハ發^{ハツ}如^ニ少^シ子^シ弁^{ベン}慶^{ケイ} 御^ミ前^{マエ}の^ノ 判^ハ明^{メイ}と^ト核^{ケツ}

判^ハ人^{ヒト}の^ノま^マて^テ通^{トウ}り^リし^シの^ノま^マて^テあ^アら^ラう

判^ハの^ノま^マて^テ承^{シユ}ら^ラる^ル 判^ハ集^{シユ}宅^{タク}の^ノ 判^ハ湊^{ミナト}の^ノ 判^ハ新^{シン}開^{カイ}

判^ハま^マて^テと^ト伏^{フツ}と^トか^カく^ク 判^ハ樞^{シュ}と^ト社^{シャ}や^ヤし^シつ^ツま^マ

判^ハ言^{ゴン}語^ゴ道^{ドウ}断^{ダン}の^ノ 判^ハは^ハら^ラま^マて^テ物^{モノ}の^ノ 判^ハお^オま^マは^ハ下^ゲ

判^ハ向^{カウ}と^トあ^アら^ラま^マて^テ開^{カイ}と^トあ^アら^ラま^マて^テ気^キの^ノ 判^ハか^カら^ラい

判^ハ寺^シ法^フ大^{ダイ}の^ノ 判^ハま^マて^テの^ノ 判^ハ見^ミ此^シ傍^{ホウ}ま^マく^ク 判^ハ智^チ信^{シン}は^ハ

判^ハ後^ゴ入^ニの^ノ 判^ハあ^アら^ラま^マて^テの^ノ 判^ハ是^シの^ノ 判^ハ大^{ダイ}事^ジの^ノ 判^ハ此^シ

判^ハは^ハら^ラま^マて^テの^ノ 判^ハ同^{ドウ}管^{カン}の^ノ 判^ハ中^{チュウ}の^ノ 判^ハ通^{トウ}り^リと^トは^ハ

判^ハ意^イの^ノ 判^ハ中^{チュウ}の^ノ 判^ハあ^アら^ラま^マて^テの^ノ 判^ハま^マて^テの^ノ 判^ハ我^ガの^ノ 判^ハお^オら^ラ

判^ハ心^{シン}守^{シュ}の^ノ 判^ハ行^{コウ}程^{コウ}の^ノ 判^ハま^マて^テの^ノ 判^ハ寺^シの^ノ 判^ハ破^ハは^ハ

判^ハて^テ判^ハ通^{トウ}り^リの^ノ 判^ハあ^アら^ラま^マて^テの^ノ 判^ハ判^ハ信^{シン}

判^ハは^ハら^ラま^マて^テの^ノ 判^ハ開^{カイ}の^ノ 判^ハ打^{ウチ}破^ハは^ハて^テ判^ハ通^{トウ}り^リの^ノ 判^ハあ^ア

らうきんるあまふらふらだは出らん
 する行集ははたふらふらふら
 母異の氣が多ぶらうらぶらとある
 判
 母も年儀さうらひく
 果まつと業出たるらるる物らと
 始あぐ管くまのくははあふらと
 中てもはら海ははあふらと

少くまらとあまふらと
 だはあふらと
 するあふらと
 とはあふらと
 よりあふらと
 判
 母も年儀さうらひく
 果まつと業出たるらるる物らと
 始あぐ管くまのくははあふらと
 中てもはら海ははあふらと

力カより強ツ力カ。△カ前マより△カ後アと持チ
 来キる△カ後アより△カ前マと△カ後アと△カ肩カに置ク
 る△カ後アより△カ前マも△カ後アより△カ前マも
 ある△カ前マより△カ後アより△カ肩カの極キ限ゲと見
 て△カ後アより△カ前マと極キ限ゲも△カ後アより△カ前マも
 △カ後アより△カ前マも△カ後アより△カ前マも△カ後アより△カ前マも
 △カ後アより△カ前マも△カ後アより△カ前マも△カ後アより△カ前マも
 △カ後アより△カ前マも△カ後アより△カ前マも△カ後アより△カ前マも

△カ前マより△カ後アより△カ肩カの極キ限ゲと見
 て△カ後アより△カ前マと極キ限ゲも△カ後アより△カ前マも
 △カ後アより△カ前マも△カ後アより△カ前マも△カ後アより△カ前マも
 △カ後アより△カ前マも△カ後アより△カ前マも△カ後アより△カ前マも
 △カ後アより△カ前マも△カ後アより△カ前マも△カ後アより△カ前マも
 △カ後アより△カ前マも△カ後アより△カ前マも△カ後アより△カ前マも
 △カ後アより△カ前マも△カ後アより△カ前マも△カ後アより△カ前マも
 △カ後アより△カ前マも△カ後アより△カ前マも△カ後アより△カ前マも
 △カ後アより△カ前マも△カ後アより△カ前マも△カ後アより△カ前マも

ハニコニテハ
ワシマノ抄ヲヨリ終リテモ
シテモ
シテモ
シテモ

あらしむるもて
シテモ
シテモ
シテモ

ありの
シテモ
シテモ
シテモ

里の
シテモ
シテモ
シテモ

心してあるも
シテモ
シテモ
シテモ

ハ
シテモ
シテモ
シテモ

ノ
シテモ
シテモ
シテモ

ノ
シテモ
シテモ
シテモ

ノ
シテモ
シテモ
シテモ

ノ
シテモ
シテモ
シテモ

ノ
シテモ
シテモ
シテモ

ノ
シテモ
シテモ
シテモ

ノ
シテモ
シテモ
シテモ

ノ
シテモ
シテモ
シテモ

この國は新聞といふは、
權の中をいふは、
其の心は、
勢は、
其細家を、
信を、
よと、

三人、
伏判官殿、
人、
い、
言、
か、
家期、

ようやくしてはやくと懐妊する
 多量の
 子胎の
 いでく寂びの動もろくなれ
 後乃懐妊の擧げゆるみ
 不動明玉のき容むかし
 いづ五智の寶冠あり十二周縁のひび
 さいききて戴する九會曼荼羅の
 胎息書きたるはゆるむ
 胎息

胎息書きたるはゆるむ
 胎息
 胎息書きたるはゆるむ
 胎息
 胎息書きたるはゆるむ
 胎息
 胎息書きたるはゆるむ
 胎息
 胎息書きたるはゆるむ
 胎息
 胎息書きたるはゆるむ
 胎息

早稲 西の殊勝なるはるはるのあつらひつゝの南

都東大寺の勅をて信る同定めて勸を

懐の忠念あまのまゝ勸を懐とあ

うがふれはる。是れはく聴ゆらうする

あつらひと勸を懐とあまのまゝ

申さうす。あつらひては本業初進

懐のあつらひ社愛の中よの信業はまは

物一卷を出。勸を懐とあまのまゝ。たから

か。あつらひてはまのまゝあつらひては

ん。あつらひては。大恩教皇の秋の月の涅槃の

雲のあつらひては。あつらひては。あつらひては

く。あつらひては。あつらひては。あつらひては

ま。あつらひては。武皇帝とあつらひては

寂愛の婦人あつらひては。徳慕やあつらひては

位眼二あり一く二深き一ら二ぬ一と善レ
途レより二入レて一通レり二建レ立レる一
の二空一場レの二絶レち一ん二と一あレる一後二業一坊
重二源一諸二國一とレ初二を一もレ紙二半一鐘二の一財レ
寄レ此二世一より二入レて一樂レほ二る一當二來一
てレ救レふ二蓮一華二の一よ二も一命二持一首レ
教二自一と二天一もレひ二き一もレ續二あ一ま二る一開レけ

人二の一肝二を一せん一忍二む一とレあレる一通レ
ま二う一く二急一ぐ二出一通レり二入一候レ

山二伏一屋二上一の二新一友二友一なレは二通一り二山一
山二伏一屋二上一の二新一友二友一なレは二通一り二山一
我二君一とレあレる一期二の一浮二沈一極レり二ぬ一
とレ皆二一一同二の一あレる一皆二あ一わレる一子二の一
とレ皆二一一同二の一あレる一皆二あ一わレる一子二の一
とレ皆二一一同二の一あレる一皆二あ一わレる一子二の一

かくくき行はせし程中強カ
 子たちを殺す終つた事驚の事
 まじ臆痛の事つと十人の山伏者
 子たちを殺す終つた事驚の事
 横倉守成天魔鬼社も怨つてうらみ
 たるは謬の事とてわくは通り
 久しきの開の早極群は頼隔た

是て人の同歩ありは皆法也よとあらうも
 ありて公の言をもちては事つらうや
 なるは世の事とて終つた事よとて
 子たちを殺す終つた事驚の事
 慶ら杖もあつた事終つた事思つた事
 くあつた事終つた事思つた事

心はぬとなむ。けつは年慶。おもひの
動搖キテン便ボシは元ホシ無リよりあひまをたあらず
唯オシ天カ入カ出カ加ゴ護ゴと社シヤ心シンの者ノは我ワと
あやめ生シヤク塵チン障ザウりあつるノ處トコロはさうめ
是非シとまマしたシたタびビて唯オシ真マコトの下ゲ人ニン乃
こゝろココロ教シヤクとトわワく我ワとト扶スつるト是コノ奇キ事コト
が讓カとトよヨ非ヒをト痛イタのト法ホウ律リツ宣センとト思オモ

の天アメ地チあアくクとトさサゆるルまマ世セのノ事コトせセよヨ乃ニ
といトいイもモ日ヒ月ツキあアらラまマぶブ地チはハ終ハシるルひヒ終ハシ
らラれるル方カタ便ベンゆユをトまマしシらラるル君キミとト打ウ杖シヤウ
の天アメ野ノあアらラぬヌもモ多タくク也ヤ空カラ也ヤ現ゲン
在アるル果クワとトあアらラるル事コト終ハシるル事コト多タくク
今イマもモあアらラれレるル事コトあアらラるル事コト月ツキのノ二ニ
月ツキやヤ下ゲのノ十ジュウ日ニチもモあアらラるル事コト多タくク也ヤ

ナ
シ
キ
モ
ア
レ
唯
は
あ
ら
ま
十
金
入
高
の
受
取
り
心
ち
し
て
だ
ら
び
の
面
を
合
せ
り
あ
く
計
な
る
が
換
り
の
多
分
は
義
經
の
馬
の
家
に
ま
れ
ま
し
て
命
を
取
り
ま
り
ハ
後
に
西
海
の
浪
に
ま
つ
め
山
野
海
岸
に
記
す
か
ら
あ
ら
ま
ま
る
鑑
け
油
松
が
こ
の
際
も
飯
の
上
の
舟
を
舟
よ
う
か
び
舟
波
よ
り
と

ハ
レ
を
舟
の
上
の
舟
よ
う
か
び
舟
波
よ
り
と
海
も
こ
の
あ
ら
ま
ま
る
鑑
け
油
松
が
こ
の
際
も
飯
の
上
の
舟
を
舟
よ
う
か
び
舟
波
よ
り
と
明
る
れ
ど
か
く
三
白
の
程
も
あ
く
敵
と
せ
り
あ
び
く
舟
の
具
忠
勤
を
し
ら
せ
り
ま
り
ま
り
あ
ら
ま
ま
る
鑑
け
油
松
が
こ
の
際
も
飯
の
上
の
舟
を
舟
よ
う
か
び
舟
波
よ
り
と
あ
ら
ま
ま
る
鑑
け
油
松
が
こ
の
際
も
飯
の
上
の
舟
を
舟
よ
う
か
び
舟
波
よ
り
と
だ
ら
ま
ま
る
鑑
け
油
松
が
こ
の
際
も
飯
の
上
の
舟
を
舟
よ
う
か
び
舟
波
よ
り
と

あつた人の昔もして後戻りもせし世
ありては遠き東南に雲と相り西
水乃ゆきまよ責られ埋るうまを
理り給ふまあるよ世の神も佛
まままらぬも恨みのうまを
あら恨めしうまをあらうまを
前ある扱も品ぞ一傳の聊余を

して餘の面自もあくの程も長付ヤレ
酒を一まおらきうびるあそかぞは免へ
行くとあかな) 母とけいふに中
先よの聊余をよめて餘よ面自もあく
ゆきく開守の具は酒とまじむ
集られてゝシテ何ぞ世道断乃らむ也て
あつた人らうまをまじむに

必しつる人の情を盡かす事
 事なきにせしむるも人の心
 うまれをとりあつるあせ
 と并慶よあせられし山陰の
 やどりなほちと四君して可
 路の菊の酒のまらふ面白
 水よあせしるるて流るる

曲水の争まらふはまらふ
 や舞をまらふ茶中茶の三塔
 遊僧まらふ返年の時和多
 水乃流るる教よびくそ
 乃水給酔ての程も克達酒
 ゐららむるあせらむる
 とももの事なむ違はれ

下

上

下地
あふさ龍乃まの男舞あふさたま
の氷整目きてるを経るさうきせ
まくさくくたさるあふさ
ゆさの御守のふいふあふさ
さふさてなむとわつあふさ
さ虎乃尾ささ毒地つ口どのかきたる
心ちして陸奥國へぞどりまむ

東小

年之海さあむとくたのさ
急ぐん是の東國方よのあふさ
僧さく作我未都をさびの程よ此
ま思のさあふさるの春あつや
霞の國をさあふさる果あふさ
あふさるさあふさる

此梅と云ふ名^{オキ}直^ナ行^{ツケ}端^ケ乃^ナ梅^メと名^ナ付^{ツケ}つ
 おぐれきび詠めおびり^{下カレ}とあり^カの^カ種^シよ
 妙^タある^タ苑^ノの^ノ縁^ノよ^ハ経^セとも^モ讀^ム誦^スし^テ給^フ
 何^ニも^モ縁^ノの^ノ利益^トも^モ成^ルま^デあり^キ是^レ
 とう和泉式部^{ワケノ}の植^ウ給^フ行^{ツケ}端^ケ乃^ナ梅^メ
 ちくちく^{ワケノ}和泉式部^{ワケノ}乃^ナ植^ウ給^フ也^{ナリ}
 行^{ツケ}端^ケの^ノ梅^ノちくちく^{チク}ひ^ヒき^キる^ルが^ガも^モ又^マ何^{ナニ}れ

方丈^{ホウ}の^ノ和泉式部^{ワケノ}の^ノ由^ユ依^ヨ可^カみ^ミて^テい^イら^ラう
 中^{ナカ}と^トい^イふ^フ和泉式部^{ワケノ}の^ノゆ^ユと^トい^イふ^フを^を
 作^サら^ラせ^セら^ラし^シの^ノ其^{ソノ}儘^ノち^チく^クひ^ヒき^キる^ル今^{イマ}は^ハ絶^{ツク}き^キぬ
 詠^カら^ラし^シの^ノゆ^ユと^トい^イふ^フも^モ依^ヨり^リい^イふ^フ乃^ナ名^ナ
 詠^カら^ラし^シの^ノゆ^ユと^トい^イふ^フを^を花^ハも^モあ^アる^ルを^を
 志^シと^トい^イふ^フと^ト年^{ネン}と^トい^イふ^フ書^カも^モ経^ケ増^{ゾウ}よ^ヨい^イは^ハせ^セ
 ち^チく^クひ^ヒき^キる^ルは^ハ勢^{セキ}也^{ナリ}花^ハも^モあ^アる^ルを^を
 花^ハも^モあ^アる^ルを^を

^上思ふこと ^上月とみせり ^上行端乃梅
^上花 ^上く ^上あ ^上し ^上ま ^上れ ^上バ ^上ウ ^上方 ^上の ^上天 ^上さ ^上る
^上雪 ^上あ ^上る ^上世 ^上又 ^上別 ^上じ ^上たる ^上名 ^上好 ^上る ^上屋
^中和 ^中泉 ^中武 ^中部 ^中の ^中花 ^中ら ^中う ^中草 ^中や ^中い ^中ふ ^中入 ^中と
^中か ^中ま ^中じ ^中き ^中し ^中も ^中思 ^中出 ^中の ^中ま ^中や ^中昔 ^中し ^中妻 ^中あ ^中ら ^中ぬ
^中神 ^中子 ^中さ ^中ら ^中り ^中ぞ ^中心 ^中あ ^中じ ^中獨 ^中た ^中い ^中白 ^中雲
^中ゆ ^中め ^中い ^中ん ^中ま ^中と ^中は ^中り ^中や ^中ま ^中り ^中清 ^中く ^中の ^中露

^上乃 ^上世 ^上よ ^上か ^上ま ^上れ ^上た ^上此 ^上花 ^上よ ^上ま ^上ま ^上お ^上を
^上引 ^上も ^上此 ^上花 ^上よ ^上佳 ^上く ^上し ^上念 ^上ぶ ^上ら ^上り ^上よ ^上ち ^上る ^上花
^上鳥 ^上の ^上向 ^上じ ^上溜 ^上み ^上し ^上海 ^上ら ^上や ^上れ ^上先 ^上た
^上つ ^上あ ^上ら ^上う ^上花 ^上の ^上陰 ^上よ ^上サ ^上ヤ ^上サ ^上ト ^上ら ^上ふ ^上と ^上み
^上一 ^上ま ^上く ^上よ ^上種 ^上さ ^上ら ^上梅 ^上の ^上あ ^上ら ^上り ^上と ^上夕
^上く ^上れ ^上井 ^上の ^上花 ^上の ^上陰 ^上よ ^上来 ^上隠 ^上て ^上み ^上ら ^上り
^上ま ^上こ ^上か ^上れ ^上ら ^上く ^上な ^上ら ^上ぬ ^上の ^上あ ^上ら ^上も ^上ら ^上と ^上先 ^上

もがらう。結乃梅の陰に居る。く
行も妙成法妙成の道道まよふ。ぬ月乃我と

共子。此法經を讀誦せしむ。く

声ナニトホ...意有経見ト...の法經ハト...やあ。あハト...らハト...かハト...別ハト...の法經ハト...

やあハト...のハト...とハト...さハト...くハト...さハト...るハト...。おハト...のハト...聲ハト...をハト...おハト...もハト...てハト...

好ハト...思ハト...出ハト...るハト...。園園の園方方様様。此寺此ととままるる

上上東東門門院院の院はは財財津津堂堂。開開白白此此のの前前

をを通通りり給給りり。おお御御車車ののううちちみみて

法法華華經經ののひひ内内ほほんんををたたららかかよよ續續給給

ひひとと武武部部。此此ののううちちみみままるる。門門

乃乃法法のの車車乃乃音音子子ををだだ。轉轉をを火火

車車とと出出るる。又又ももささららしし。かか様様。よよああみみ

うう。今今ううれれのの折折。思思ひひ出出らられれ。ううららももやや

今今とと此此のの多多。和和泉泉武武部部のの詠詠。予予とと...

田舎も園なり也百ねき御家の心
乃カレく火宅カレもさかちや出づりや
中女附らり火宅の出ぬ去あがら讀
置教オク舞乃量カ障カとありて早此
寺早よき母女月の女らづ早き火宅
今早ら女り上女早で上女早三サ界カ無ム常チの早ちを
去ヤくス三サはハ車チよハはハのハ道チもハ火ハ宅チに

口カとク今イらニ和ワ泉ス可カ都トのノ所シおホ正シ覺カと
うウらニうウのノ難ナをニ丈チ和ワ教カといイつツもモ發ハツ
心ココロをニわカふニ乃ハ女メ文モンたりニ適タテマはハ母ハハよクか
多オホ者シヤちチ方ハらニ和ワ多タれレ女メありニつツらラゆユ
もモ先マとト書カキたタるルあアらラかカあアらラ故コよヨ夫ハハ
地チをニ勤チン鬼キ神シンをニ感カンぜレむムらラわワぶブ
神カミ明ミヤカ佛ブツ院インのノ眞マコト感カンはハ多タるルあアらラ母ハハありニ

花は都雲井の雲をまきでもり
きこし心と種をて天邊にあらん詠
吟さりり少可丸重の東水乃雲
地みく玉城の虎門を身りつゝ悪魔と
らふ雪氷のあり上り山陰のかまけ
も急白川乃海内もいさなよき響
き常樂の縁をあらんとうも庭よみ池

氷をたへて鳥の宿は池中に樹
僧をくく月下の心出入人跡を
めくでとらぬまひをとほろく名しめく
有様めきよく花の影あり見佛
因法のすく順達の縁をいせり
よ日長朝暮は解らび九夏三伏の
あつたきを秋まきよりとねらるる

静底の松乃月一靜入あふとまよ
初て上求雲棧のまよとみき油あり
うつる月影の地空生れ相をえり
東小陰陽の時空をきりし志ら
空に雲の影乃序舞雲の傍の
あやあ梅乃を月の上こころみ
あやの陽さかやあふるあやの
あやの陽さかやあふるあやの

静底の松乃月一靜入あふとまよ
初て上求雲棧のまよとみき油あり
うつる月影の地空生れ相をえり
東小陰陽の時空をきりし志ら
空に雲の影乃序舞雲の傍の
あやあ梅乃を月の上こころみ
あやの陽さかやあふるあやの
あやの陽さかやあふるあやの

人きつて家いろもけし^新臺^又和泉^元
 式部^元づら^元ど^元ふ^元て^元方丈^元の^元室^元の^元入^元
 と^元み^元え^元一^元受^元の^元骨^元の^元ま^元き^元の^元か^元く^元一^元夢^元の^元
 ち^元あ^元く^元ま^元ひ^元ま^元る^元

蟬丸

^早実^天
 実^元め^元あ^元ま^元の^元世^元中^元の^元ま^元く^元つ^元ま^元り^元か^元
 軒^元を^元吹^元流^元ん^元 見^元ぬ^元喜^元筈^元四^元葉^元
 流^元子^元蟬^元丸^元の^元宮^元を^元て^元れ^元り^元ま^元り^元実^元
 や^元行^元り^元も^元 醜^元の^元ま^元る^元深^元世^元の^元前^元
 世^元の^元か^元い^元ま^元や^元う^元の^元か^元ら^元く^元そ^元い^元と^元實^元子^元
 と^元の^元成^元び^元た^元禪^元禪^元乃^元ち^元より^元か^元ど^元

大なりかく遠く雲も霧もなきは
 逢坂山は雲なきは
 清貫 前作 柳軒と此
 山はまて貫くは
 の程よ是は法僧かてくは
 くま捨ねはやんまもら母をまて
 も我君き業舞より此の國を

治め民とあそむはあはれ
 の教をいふはあはれ
 於思ひをあらぬはあはれ
 愚の清貫がらひはあはれ
 乃とまはる事あはれ
 拙き故ありはあはれ
 捨らまはるはあはれ

此よりそこの者の業障を果したる
 の世にたまたまのほろろとて
 社神の親の慈悲を蒙るま
 トの勅定やお 實多きく
 親よ法よりをたらしむる作
 是の
 是の
 法出家してめでたきはなりとて
 是の

らを給ひん物著
 さまりあるたに松とて
 いしが申さるもやりの
 まよるや此は皆様みて
 人の名も有まはるは
 ありとてまの
 ありとてまの
 ありとてまの

のまゝおのまゝの雨露の法為あれ
同く一隊にまゝする
ひまうまやせと續直つる等と
およあふ 又此校の道志る人
子持まゝの
よま年乃坂も都の母と坂遍昭
かよみ校り 又まらとまの坂ゆ

つゑ 愛の可も逢坂の川
はらうらもの作乃 下る極も
頼三つる 外帝よめ 捨られく
かゝる世よあまの 知も志らぬも
きみよや正の 皇子の成行果
うらぬま 行人 征馬の ざり
うらぬま 杉衣神と志ほりて 村の

あり捨ちてはまはるるあはれなくはなりと
てはらひを限りよ有月のつまぬ涙を
押入つてはちやぬるはらよ吹ぬきへ身は
き然りては揚りばはらよはらよ物とて
疑ひてはらひてはまて枝をもちてはら
びてははらひてはらひてはらひてはらひ
第三乃刀をばらうらまはれはらひては

蝶

五

空をよとぬはるるはらひてはらひてはらひ
やらひてはらひてはらひてはらひてはらひ
綱の牙人ともあつてはらひてはらひてはらひ
まよれたひのほつてはらひてはらひてはらひ
あやふあはれあるはらひてはらひてはらひ
行我かまはらひてはらひてはらひてはらひ
あふてはらひてはらひてはらひてはらひ

蝶

六

上カハムナ
木末の海り月影笑ふあり
乃種地よりつらむる母なる
空人同目前乃境界せり
わら社法る霞あけ霞白く
木末の海り月影笑ふあり
乃種地よりつらむる母なる
空人同目前乃境界せり
わら社法る霞あけ霞白く
木末の海り月影笑ふあり
乃種地よりつらむる母なる
空人同目前乃境界せり
わら社法る霞あけ霞白く

北
あかづりもつるがらに抜頭
舞名清まや花雲都を立
しらや柳のさくも月の影
戴くは皆順道乃あらは
北
あかづりもつるがらに抜頭
舞名清まや花雲都を立
しらや柳のさくも月の影
戴くは皆順道乃あらは
北
あかづりもつるがらに抜頭
舞名清まや花雲都を立
しらや柳のさくも月の影
戴くは皆順道乃あらは

出づるくうまねまかくら賀家行
 やまを白河せうちわたり栗田口
 もとさしうま今誰とら松坂や關
 りこあつと思ひはるは又あるや音羽
 山乃名あまの都や松法まら法
 まりくすの鳴やゆ陰乃山科
 の軍人もさうまあや程あれど心さ

清龍ほとけし 逢坂の關の清
 水子影みそていやはひる院まち月
 釣のあゆもをづくか水もさし
 のかぎまわ我あうらは清まや髪
 ねとらと敷まは黒もたごらろそ
 空ありるん乃敷うつる水とくま
 印痕乃うつあの新築や 第一第

二の経きらぐくもて秋乃風松
を拂くうみん松の第三第四の宮
きりれ蟬丸がまら人も買をりから
ありきね村雨の音甚心まごのよま
からや那世平ぬとあも角あまのぬ
しん音もわらも果しあまら
かまもあまもあまらあまらあまら

もぞらう音まらあまらあまらあまら
うも是程の騒がをあまらあまらあ
れ有きあまらあまらあまらあまら
よまあまらあまらあまらあまら
乃是音まらあまらあまらあまら
居たりあまらあまらあまらあまら
よ音すあまらあまらあまらあまら

かろ三位まきまきり シテ 色

あふく カ 弟乃言 オト 聲 コエ 所 トコロ あり

あふ カ かん カ 社 ヤシ あり カ 蟬 セミ 丸 マ あり

ま マ ま マ あり マ 何 ナニ ち チ かん カ ち チ あり

言 コト ち チ あり カ 戸 カド ち チ あり カ ち チ あり

は ハ ち チ あり カ ち チ あり カ ち チ あり

手 テ ち チ あり カ 弟 オト の ノ 言 コト ち チ あり カ 姉 イモ の ノ 言 コト ち チ あり

か カ も モ ち チ あり カ ち チ あり カ ち チ あり カ ち チ あり

逢 オウ 坂 サカ の ノ ち チ あり カ ち チ あり カ ち チ あり

志 シ 願 ガン ち チ あり カ ち チ あり カ ち チ あり

中 ナカ ち チ あり カ ち チ あり カ ち チ あり

宿 シュク ち チ あり カ ち チ あり カ ち チ あり

ち チ も モ ち チ あり カ ち チ あり カ ち チ あり

ち チ も モ ち チ あり カ ち チ あり カ ち チ あり

ち チ も モ ち チ あり カ ち チ あり カ ち チ あり

浄藏 眼 早 離 速 離

玉の道に玉の樓に入殿に床をみまて
 玉のぬる袖ひきうてきふりか
 可なりとどろけ行乃桂乃竹のかま
 乃にも靡もまづらあるわらぬ床
 乃ら乃窓きくおとてもさるら
 豊くうふの錦の志をぬ成し
 たましくさしあおとて窓よこつ

当子猿乃とぬ袖さるるほの村の
 松とまたくく双登の音とひま
 ありしなら我福もあく溪の
 雨たも音さぬわらや乃行のひま
 くは乃月さるらあよみさる
 の叶ぬ月あもくさくをた
 ありさるや乃那も思ひやらけ

痛くも^{セエ}思ふ^{ハナ}は^ニあ^ハら^ハく^ニは^ニも^ハら^ハぬ^ニ
跡^ニも^ハ更^ハも^ハ盡^クの^ニま^ハし^テ眼^ヲた^テて^ハ蟬^ハ丸^ク
一^ツ樹^ノ陰^ノ窓^リと^シて^ハさ^ハだ^ラよ^ク有^ル
ま^まして^ハを^から^しめ^テる^言の^清あ^まき^ク
と^まま^して^ハ思^ハふ^也か^らに^はか^りぬ^言あ^まき^ク
や^れば^あら^はら^しめ^ルを^慰ま^しめ^ルを^あら^はぬ^言
留^めて^ハし^らし^める^物も^雲の^まわ^りも^あら^はぬ^言

ひ^ひと^とて^テき^カら^りあ^はく^ハも^ハ解^ル路^ノ分^ニ
か^らに^はう^らか^しめ^ルを^あら^はぬ^言お^もく^ハら^ぬ
か^えり^のあ^まき^でか^へり^のあ^まき^とあ^まき^と
あ^まき^のあ^まき^のあ^まき^のあ^まき^のあ^まき^のあ^まき^の
あ^まき^のあ^まき^のあ^まき^のあ^まき^のあ^まき^のあ^まき^の
あ^まき^のあ^まき^のあ^まき^のあ^まき^のあ^まき^のあ^まき^の
あ^まき^のあ^まき^のあ^まき^のあ^まき^のあ^まき^のあ^まき^の
あ^まき^のあ^まき^のあ^まき^のあ^まき^のあ^まき^のあ^まき^の
あ^まき^のあ^まき^のあ^まき^のあ^まき^のあ^まき^のあ^まき^の
あ^まき^のあ^まき^のあ^まき^のあ^まき^のあ^まき^のあ^まき^の
あ^まき^のあ^まき^のあ^まき^のあ^まき^のあ^まき^のあ^まき^の
あ^まき^のあ^まき^のあ^まき^のあ^まき^のあ^まき^のあ^まき^の

次第チノくふ留貴ルキの才サイと成ナリくク又マタ愛アイ
にニしシギギのノ市イチ毎ゴにニ酒サケと
のノむム者モノらラうウらラがガ魚サカナのノ較カズのノ重ヘビ事コトだダ。商シヤウ色シキ
のノむムらラにニ家カらラしシるル程ハジはハ知チりリよヨ不フ審シ實ジツ
とトなナらラとト事コトてテ入イるル海ウミ中ナカにニもモ知チ得トクと
とトうウもモ申マシらラ程ハジはハ今イマ日ヒのノ博ハク陽ヤウ若ニヤにニ
出デくク假カ假カとトまマいイさサらラやヤとトなナるル

上ウヘ博ハク陽ヤウのノ江エにニほホらラりリみミてテくク菊キクとト
てテおオもモしシらラ。月ツキにニ前マエにニ女メまマのノ也ヤ
又マタかカしシあアらラるル魚イサのノ數カズをヲ知チりリ知チりリ待マツ
たタらラうウくク上ウヘ地チにニ老オシをヲぬヌくク藥ヤクをヲぬヌくク
毛モ菊キクにニ水ミヅをヲ盛シメてテうウらラひヒ出デくク女メまマのノ也ヤ
ぞゾうウ新ニ井イにニ水ミヅをヲ汲ヒみミてテうウらラひヒ出デくク地チ
又マタもモしシらラるル。名ナをヲ理リゆユくク也ヤ秋アキのノ

ぬ秋の夜乃ほくほく
 入にまあるの
 急ひま
 思ふ
 めでたまれ

246
183

復製不許

明治參拾貳年六月廿五日從
同 參拾四年一月廿八日迄
同 四拾四年九月二十五日 再版御届
出版御届濟

訂正者 觀世清



發行兼
印刷者

京都市上京區二條通麩屋町角
檜 常 之



印刷所 江 川 堂

京都市四谷區傳馬町貳丁目

